

本道における知的障がい教育の充実を目指し、教員の指導力の向上を図るため、参考となる資料を作成しました。今号は、「教科別の指導」の特徴や効果的な指導の在り方について理解するための内容としましたので、参考にしてください。

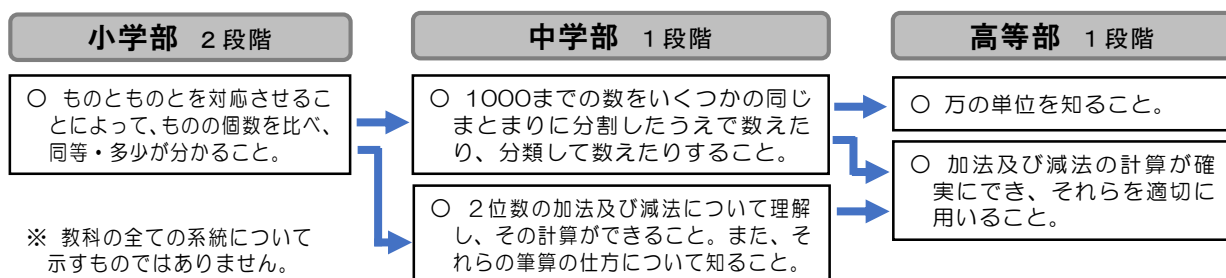
□ 「教科別の指導」の意義

段階的・発展的に指導する

教科は、指導の内容をその性質に応じて分類し、系統立てて組織化したものですので、「教科別の指導」は、同系列の内容を段階的・発展的に指導するときに有効です。

【教科の系統性とは】

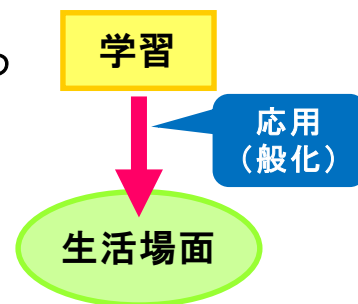
下図は、知的障がい特別支援学校における算数・数学の「A 数と計算」領域の指導内容の一部です。扱う数字が段階的に大きくなっていることや、数を数えることから加法や減法に発展的に展開していることなどが分かります。



□ 「教科別の指導」で指導するための工夫

特別支援学校学習指導要領解説各教科等編の「教科別に指導を行う場合」には、「生活に即した活動を十分に取り入れつゝ学んでいることの目的や意義が理解できるよう段階的に指導する必要がある。」と示されています。

例えば、上記の小学部の算数科の学習であれば、3人の友達に5枚のお皿を配つて2枚余る計算をしたあと、実際にその活動場面を設定したり、給食の配膳の際に応用できることを児童が理解できるようにしたりすることが大切です。



《ここをチェック》

児童生徒が、学習したことの意味を理解し、生活場面に生かせるよう、具体的な指導内容を設定しましょう。

